

1. 科目名 (単位数)	社会調査法 (2単位)	3. 科目番号	SBMP2107
2. 授業担当教員	大久保 圭介		
4. 授業形態	講義、小テスト、ディスカッション、仮説作成、質問項目と選択肢作成、面接調査、レジュメ作成と発表	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>「社会調査」とは、社会事象、人々の意識や行動などの実態をとらえるための調査である。ソーシャルワーカーが地域のニーズ等を正確に把握し効果的な実践を行うためには社会調査の知識が欠かせない。</p> <p>ここでは本講義の概要・ポイントを下記3点に示す。</p> <p>1) 本講義では第一に、社会調査における基礎知識の習得及び具体的な調査デザインを描ける状態を目指すものである。</p> <p>2) ソーシャルワーク実践は可視化が難しい部分が多い。ソーシャルワーカーは自ら行ったサービスが利用者にとどのような影響を与えたのかを数量的にあるいは質的に把握し、それらを的確に分析する能力が求められている。</p> <p>社会調査の手法を身につければ、ソーシャルワーク実践を可能な限り可視化し、クライアントのみに限らず広く一般に対する説明責任(アカウンタビリティ)を果たすことにもつながる。</p> <p>3) ソーシャルワーク実践を統計的に処理したデータを蓄積し、それらを適切に活用すればより正確な根拠・エビデンスに基づく次の実践につながっていく。</p> <p>以上の内容を可能な限りアクティブ・ラーニング(グループワーク及び個人ワーク等)を取り入れて、主体的かつ対話的に学習していく。このように双方向性を意識していく為、学生の理解度・授業の進捗状況等に応じて授業内容が前後する場合もある。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の意義と目的が説明できる。 2. 質的調査と量的調査の意義を理解し、それぞれ長所と短所が説明できる。 3. 社会調査における倫理的配慮及び個人情報保護の意義を説明できる。 4. 調査対象ごとに仮設を設定し、適切な方法で調査を実施できる。 5. 調査結果のデータを適切に処理し、分析・考察を導き出すことができる。 		
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の理解度をみる課題を授業内で複数回行う。 *授業の進行状況に応じて指示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集『社会福祉調査の基礎』中央法規出版 *授業中に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 東京福祉大学編『新・社会福祉要説』ミネルヴァ書房</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会調査の意義と目的が説明できること。 2. 質的調査と量的調査の意義を理解し、それぞれ長所と短所が説明できること。 3. 社会調査における倫理的配慮及び個人情報保護の意義を説明できること。 4. 調査対象ごとに仮設を設定し、適切な方法で調査を実施できること。 5. 調査結果のデータを適切に処理し、分析・考察を導き出すことができること。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講態度・参加姿勢 40% (全授業の3/4以上の出席が必要) 遅刻(10分迄)は3回で1回休みとなる。 2. 筆記試験・レポート試験 60% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>統計的な知識が求められる部分もあり、苦手意識を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。「なぜこの知識が必要なのか?」という根本的な部分からお伝えしていきたいと思えます。</p>		
13. オフィスアワー	<p>授業内(初回授業)に通知します。</p>		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション ・本科目の概要 ・成績評価の基準 ・注意事項	事前学習	本科目のシラバスを確認しておくこと。
		事後学習	学習記録への記入
第2回	社会福祉調査の意義と目的 ・統計法 ・量的調査/質的調査の手法	事前学習	教科書第1章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、統計法、量的調査と質的調査を比較しながら復習しておくこと。

第3回	社会福祉調査と社会福祉の歴史的關係 ・社会福祉調査の源流 ・わが国の基幹統計調査と一般統計調査	事前学習	教科書第1章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、19世紀～20世紀にかけてC.ブース、ラウントリーらがイギリスにおいて実施した貧困調査について復習しておくこと。
第4回	社会福祉調査における倫理と個人情報保護 ・社会福祉士の倫理綱領 ・個人上保護法 ・インフォームド・コンセント	事前学習	教科書第2章の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、特個人情報保護法の規定と運用、会福祉調査実施者に求められる倫理的配慮についてについて復習しておくこと。
第5回	調査における考え方・論理 ・科学的調査・研究方法とは何か ・調査・研究の基本用語の説明(信頼性と妥当性・概念・独立変数/従属変数・帰無仮説/対立仮説・操作手的定義等)	事前学習	教科書第3章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第6回	社会福祉調査の目的と対象 ・ソーシャルワークと科学的方法の接点 ・領域・対象別の研究デザイン	事前学習	教科書第3章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、社会福祉調査は貧困や犯罪、スラムなど、社会的な問題を数量的・質的に明らかにすること、対象別に全数調査・標本調査、インタビュー調査・面接法・観察法といった最適な手法でデザインしていくことを復習しておくこと。
第7回	小テスト(筆記試験) / 復習講義	事前学習	これまでの講義内容(特に講義中に指摘した箇所)を復習したうえで受験すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、知識があいまいであった部分を中心に、小テストの復習をすること。
第8回	量的調査の概要 ・標本抽出(無作為抽出法・系統抽出法・有意抽出法・層化抽出法・多段階抽出法他) ・カイニ乗検定 ・クロンバックの α 係数 ・t検定	事前学習	教科書第4章第1節～第2節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、全数調査と標本調査(無作為抽出法・系統抽出法・有意抽出法・層化抽出法・多段階抽出法他)、横断調査と縦断調査(トレンド調査・集団調査・パネル調査)を比較しながら復習しておくこと。
第9回	質問紙の作成方法と留意点 ・講義の中で学習した下記イ・ロを踏まえて質問紙における質問項目の作成演習を行う。 イ) 質問項目作成の留意点として、ダブルバーレル質問・ワーディング・ステレオタイプ語、キャリアオーバー効果等に注意する。 ロ) 回答の収集方法として自形式(留め置き調査・集合調査・郵送調査・インターネット調査)、他計式(訪問面接調査・電話調査)等それぞれのメリット・デメリットを押さえる。	事前学習	教科書第4章第3節～第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、回収率を高める工夫とバイアスが掛からない質問項目の設定について復習しておくこと。
第10回	量的調査の集計と分析 ・講義の中で提示する例題を用いてデータの集計(度数分布票・クロス集計表)、妥当性と信頼性の確認、仮設定等を演習する。	事前学習	教科書第4章第5節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、可能な範囲でExcelや統計解析ソフト(SPSS等)を用いてデータ処理する方法と注意点を復習すること。
第11回	質的調査の概要と方法 ・グラウンデッド・セオリーとコーディング ・スケリング・クエスチョンとシングル・システム・デザイン ・テキスト・マイニング ・質的調査の調査手法、面接法(非構造化・構造化・半構造化)、観察法(非参与観察法・参与観察法・アクションリサーチ)	事前学習	教科書第5章第1節～第3節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、調査手法、面接法(非構造化・構造化・半構造化)、観察法(非参与観察法・参与観察法・アクションリサーチ)の手法と注意点を復習すること。

第12回	質的調査における記録の方法と留意点	事前学習	教科書第5章第4節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第13回	質的調査のデータの分析方法 ・事例を用いてグラウンデッド・セオリーのコーディング、KJ法のカード分類の手法、データの視覚化（ヒストグラム、箱ひげ図、散布図等）を演習する。	事前学習	教科書第5章第5節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入 今回の授業を踏まえて、質的なデータを可視化する手法について復習すること。
第14回	ソーシャルワークにおける評価の意義 ・ソーシャルワークにおける測定と評価の意義 ・信頼性と妥当性の関係性 ・尺度の水準（名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度）	事前学習	教科書第6章第1節～第3節の内容を確認したうえで受講すること。
		事後学習	学習記録への記入
第15回	総括・期末試験（レポート試験）	事前学習	これまでの講義内容（特に講義中に指摘した箇所）を復習したうえで受験すること。
		事後学習	全体を通して、シラバス「8.学習目標」に照らして反省及び自己点検を行う。
期末試験			